

タイトル	「森へ行きましょう」
ポーランド語のタイトル	„Szła dziewczeczka do laseczka...”
テーマ *	b
名前	マルティンオディヤス
ポーランド語の名前	Martin Odyjas
学校名 * 2	ヤギェウォ大学の日本学科
学年	二年生
日本滞在歴	なし

* a. 異文化理解 b. 現代の諸問題 c. 私の大切なもの d. 私からの未来へのメッセージから選択

「森へ行きましょう、むすめさん ♪ ♪」皆さんは「森へ行きましょう」という歌をご存知だと思います。これはポーランドの民謡です。その歌詞に、ご存知の通り、僕らは木を切る、君たちは草刈の仕事をしに。。。という日本語の訳が付けられています。この歌詞を一般的に考えれば、男らしい仕事は木を切ることです。ところで皆さん、何十年も何百年もかけて育った木を切るとは本当にいいことでしょうか。

昔の人にとって、森は人類の故里とかわらないほど大事な所でした。昔から人々は森に頼ってきました。家を建てるのにも、家の中を暖めるのにも、料理をするのにも木を使って生活してきました。

最近ポーランドのビャウオヴィエジャという森が全世界で話題になりました。この森はヨーロッパの「最後」の原生林と言われており、国立公園になっています。二年前からポーランドはUNESCOの世界遺産に指定されているこの原生林の一部の木の伐採を、中止するように EU 側に求められています。もし EU 側が主張するように、これが最後の原生林であったなら、昔、欧州全土に多くあった森をこれまで、いったい誰が無分別に伐採して、この森を最後の森にしてしまったのかという疑問が生まれてきます。今、こんなことを問うべきであるかどうかはともかくとして、全世界における森の将来が危ないということはじじつです。

昔の歌にある「僕らは木を切る」という仕事は必要不可欠なことですけれども、この仕事は慎重に行わなければなりません。例えば、木を切ったら、そのあと、かならず新しい木を植えるようにするというのはいい習慣ではないでしょうか。

皆さんこんなことわざをご存知でしょうか。「男は木を植え、息子を持ち、家を建てる」ということわざです。男らしい仕事は木を切るだけでなく、木を植え、育てていくことも重要な男らしい仕事ではないでしょうか。

「森へ行きましょう」という歌は、単なる民謡ではありますが、森に依存して生きる人類の存在の仕方を象徴するものだと思います。「人類は木から降りた猿だ」という表現もありますしね。。。

ご清聴、ありがとうございました。

Podsumowanie(60-70 słów)

Choć temat istotności lasów i drzew podnoszony jest nadzwyczaj często, ludzkość wciąż obchodzi się z tym bezcennym darem natury w sposób co najmniej niedostatecznie odpowiedzialny. Niezliczone przesłanki wskazują i przypominają nam, jak wielką rolę w tym, że ludzkość i cywilizacja mogą dziś być tam, gdzie są, odegrały lasy i drzewa, a nieustannie zdajemy się zapominać, że gdyby nie drzewa, to może – paradoksalnie – wciąż na nich właśnie byśmy tkwili.